



(調べた本)

- ・「あいちの山車図鑑」「あいち山車まつり図鑑」「あいち山車まつり日本一協議会」
- ・東海の山車とからくり (長屋良行、水崎寛、田中千奈代 著、ういぼあと 発行)

(調べたブログ、YouTube)

- ・ブログ 「南明治の怪社探れ」など。(明るい朝の「お散歩日記」さん)
- ・YouTube 「敏車 山車巡行 安城市」(東海山車まつりさん)

山車のような つくられた時代	神社・場所	大きさ	特長	町なかのひき回し	祭礼日 (山車が出る日)	現在の保管場所	取材 お話をした人	おもな資料
 明治・大正 今は、山車はない。	高棚・神明神社	不明	・町内の組に分かれて、それぞれ山車を持っていた。 ・彫刻やまくななど美術的にも、すぐれていた。 ・組ごとの倉庫に保管されていた。	・組ごとに、町を回り、神社にせいそうしていた。			 山車子(父)	 山車子(父)
 昭和20年代 (1950年ごろ) 今は、山車はない。	南明治八幡社 花ノ木町	はばろmぐらい 長さ4mぐらい 高さ3mぐらい	・祭礼前に組み立て、かざりつけ、祭礼後に分解して、町で保管。 ・床板をぬいて、山車の中の人歩いでいくことがあった。	・町の中を回って、八幡社に行った。 ・昭和30年代末ごろまで回っていた。			 山車子(母)	 山車子(母)
記録写真なし。 今は、山車はない。	南明治八幡社 朝日町	はばろmぐらい 長さ4mぐらい 高さ3mぐらい	・祭礼前に組み立て、かざりつけ、祭礼後に分解して、町で保管。 ・かざりやすいように、床板を抜くこともあった。	・町の中を回って、八幡社に行った。 ・昭和30年代末ごろまで回っていた。			 山車子(父)	
 昭和30年代はじめ (1955年～) 今は、山車はない。	南明治八幡社 相生町	はばろmぐらい 長さ4mぐらい 高さ3mぐらい	・祭礼前に組み立て、かざりつけ、祭礼後に分解して、町で保管。	・時々、踊りながら、回って、八幡社に行った。 ・昭和30年代末ごろまで回っていた。			 山車子(父)	
 昭和30年 (1955年～) 今は、山車はない。	南明治八幡社 末広町	はばろmぐらい 長さ5mぐらい 高さ4mぐらい	・竜や獅子の彫刻が柱や側面にされていた。 ・屋根も二重の唐破風でつくられていた。	・10年ほど前まで、回っていた。		(山車の一部) ・南明治山車蔵 ・木公民館	 山車子(母)	 山車子(母)
 昭和30年ごろ (1956年～) 山車は、昭和29年8月13日に豊田市の上郷大成自治会へ	南明治八幡社 栄町	はば4mぐらい 長さ5mぐらい 高さ4mぐらい	・ひき出し式の前舞台があり、踊りなどをした。 ・うしろに、かじきとるためのハンドルがついている。	・10年ほど前まで、回っていた。 ・七夕祭りで、ひろうすることもあった。	(昭和30年) ・10月の第2土曜日(上郷大成のち祭り)	・豊田市上郷大成にある倉庫。	 山車子(父)	 山車子(父)
 昭和32-33年ごろ (1957年～) (昭和32年7月13日に20年ほど、お蔵)	南明治八幡社 御幸町	はば4mぐらい 長さ5mぐらい 高さ4mぐらい	・明治用水のもと水門のけやきの木材を利用してつくられている。 ・屋根や柱などに金色のかざりがつけられている。	・10年ほど前まで、回っていた。 ・七夕祭りで、ひろうすることもあった。	・4月15日に近い日曜日。	 令和3年4月25日に新しき山車へ。	 山車子(父)	 山車子(父)
 昭和50年 (1982年) (お蔵かじ)	池浦天満宮 池浦町	はば2mぐらい 長さ5mぐらい 高さ3mぐらい	・十二支の彫刻が正面のはりにある。 ・うしろにかじがついていて、向きをかえる時には、後輪を、板などにのせて、すべらせる。	・10年ぐらい前まで、町の中をひいていた。 ・今は、祭礼の日に表示している。	4月29日	 (池浦公民館蔵)	 山車子(父)	 山車子(父)
 平成9年～ 平成15年ぐらい (1997年～ 2003年ぐらい)	高棚町神明神社 ・大太鼓山車 ・響美山車 ・組(東西南北) ことには太鼓山車	・大太鼓山車はばろmぐらい ・大太鼓山車はばろmぐらい ・響美山車はばろmぐらい ・組ごとの太鼓山車はばろmぐらい ・組ごとの太鼓山車はばろmぐらい	・より多くの人たちに、太鼓をたいてもらえるようにつくってある。 ・町の中を回りやすいような大きさをつくってある。	・町の中をひき回している。 ・今年の平成七夕まつりに参加。(響美山車)	4月7日(第3日曜日) 10月	 高棚町神明神社	 山車子(父)	 山車子(父)

②末広町山車の解体(令和3年2月25日)

平成、令和と時が進むうち、山車のこしょうやきずが目立つようになり、区画整理による、山車蔵の移転を機会に、解体することになったそうです。その山車の前面や彫刻の一部は、御幸町の山車蔵や末広町公民館に、大切に保管、かざられています。

(解体工事)



(御幸町山車蔵)

(末広公民館にかざられている彫刻の一部)

(山車の一部)



(山車の前面)



(まとめ・感想)

- 山車は、町のはんえいや町の人たちのけんこうと安全をねがって、つくられている。
- ハンドルがついている、けやきの木材を使っている、うしろかじである、ひきだし式の
前舞台がついているなど、山車によって、さまざまな特色があり、まったく同じ山車は
ない。
- 昭和30年代の南明治のお祭りは、それぞれの町の山車を中心にして、大人も子どもも、
いっしょになって、もりあがり、にぎやかだった。
- 山車をのこし、まもるには、たくさんの人の力がみつよう。
- 新しい山車をつくる人や町もある。
- 今年の10月には、高棚のお祭りへ。そして、来年の10月には、上郷大成のお祭りに行き、
それぞれの山車や、ひき回しのようすを見に行きたいです。

③栄町山車の旅立ちと上郷大成山車のスタートへ

保存、管理が、むずかしくなった栄町山車は、保存会へ、令和2年9月13日の深夜、一部解体され、来年、令和8年10月のお祭りで、上郷大成山車としてスタートする予定です。

きせき的な縁で、豊田市の上郷大成はやし保存会へ、令和2年9月13日の深夜、一部解体され、来年、令和8年10月のお祭りで、上郷大成山車としてスタートする予定です。

(栄から上郷へ)



(令和7年7月31日)

(上郷大成の山車のようす) 令和7年7月31日



(おわりに)

この自由研究のために、安城市内の9この町内会の方々、八幡社の方、豊田市の上郷大成おはやし保存会の方、上郷大成自治会の方、そして、上郷大成の建設会社の方々に、お世話になりました。どの方々も、親切に、やさしく教えてくださり、大切な写真や資料も見せていただき、とても、うれしかったです。ありがとうございました。

この自由研究を見て、たくさんの方が、「山車」のことを知り、きょうみを持ってもらえると、うれしいです。